

第114期 中間事業のご報告

# 株主通信

2023年4月1日～2023年9月30日

株式会社 椿本チエイン

証券コード | 6371

## 「長期ビジョン2030」の実現に向け、 成長戦略をスピーディに実行していきます。

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

### 2023年度上半期の連結業績について

2023年度上半期の連結業績は、売上高1,287億60百万円、営業利益86億22百万円(営業利益率6.7%)となりました。

ロシア・ウクライナ問題の長期化や、米欧の金融引き締め影響による内需抑制、中国経済の回復遅延など、世界経済は勢いを欠く状況ではありましたが、チェーン事業が販売好調であったことや全面的な円安などにより、当社業績は前年同期比8.3%の増収となりました。営業利益も同2.9%の増益となりましたが、調達コストや人件費の上昇などにより、売上高営業利益率は6.7%と前年同期より0.3ポイント低下しました。

売上高	1,287億60百万円(前年同期比 +8.3%)
営業利益	86億22百万円(前年同期比 +2.9%)
経常利益	103億64百万円(前年同期比 +4.8%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	73億円(前年同期比 +8.1%)

### 2023年度の通期連結業績予想について

2023年度の通期連結業績予想については、上半期の実績や足元の事業環境を考慮し、下表のとおり修正いたしました。

売上高	2,630億円(前期比 +4.5%)
営業利益	161億円(前期比 ▲15.2%)
経常利益	192億円(前期比 ▲8.4%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	138億円(前期比 +0.4%)

世界経済は、中東の地政学リスクの高まりや、米欧の金融引き締め影響の顕在化など、不透明感が増す状況となっておりますが、当社グループは、「中期経営計画2025」の達成に向けて、既存事業の収益力強化や新事業の創出、モノづくり改革、人づくりの強化といった成長戦略にスピーディに取り組んでまいります。また、ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組みを強化するとともに、社会課題の解決に貢献できる企業グループを目指してまいりますので、株主の皆様には、より一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年12月

代表取締役会長  
兼 CEO  
古世 憲二

代表取締役社長  
兼 COO  
木村 隆利



※CEO : Chief Executive Officer (最高経営責任者)  
 COO : Chief Operations Officer (最高執行責任者)

# 欧州事業拡大に貢献する つばきグループの老舗企業

カーベルシュレップ

## TSUBAKI KABELSCHLEPP GmbH

1954年設立のKabelschlepp GmbH(ドイツ)は、1968年に樁本チエインとケーブルベヤ(ケーブル・ホース支持案内装置)における技術提携契約を締結。その後、2010年度につばきグループの一員となり、TSUBAKI KABELSCHLEPP GmbH(以下、TKG)となりました。今回は、欧州事業の拡大に不可欠なケーブルベヤの老舗、TKGを紹介します。



### トップメッセージ

TKGは、1954年ドイツ・ジーゲン市に設立されたケーブルベヤの草分け的存在です(現在の会社は、ノルトライン・ヴェストファーレン州ヴェンデン市)。

設立以来、当社はスチール製やプラスチック製のケーブルベヤ、チップコンベヤ(金属切屑搬送・クーラント処理装置)などの製品とソリューションを継続的に開発し提供してきました。その革新的で適応力の高いソリューションは、工作機械やクレーンシステム、洗車機、医療機器、産業用ロボット、石油掘削はもとより、宇宙関連産業にも採用されるなど、様々な産業に貢献しています。

当社は、特殊産業および機械・プラントエンジニアリングの分野における革新的で高品質な製品開発によりグローバルな拡大を図り、中期経営計画2025の達成、そしてTSUBAKIグループの成長に寄与していきます。

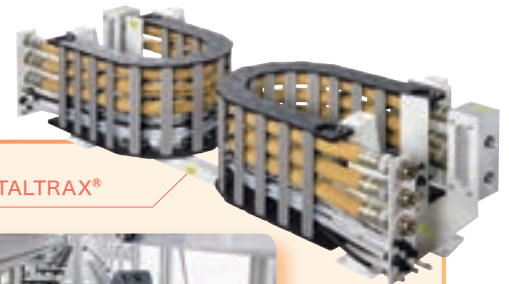
**Henning Preis**

President, TSUBAKI KABELSCHLEPP GmbH

### 製品紹介

TKGでは、装置の可動部に追従して移動する電源・信号等のケーブルやチューブを確実に支持・案内することで摩耗や切断から保護するケーブル・ホース支持案内装置(ケーブルベヤ)を製造・販売しています。写真のTOTALTRAX®は、顧客の機械スペックに合わせ端末加工されたケーブル・ホースをケーブルベヤに組みつけ納品。機械・装置への素早い装着を可能とすることで、顧客の工数削減を実現しています。

TOTALTRAX®





## グリーン電力を活用したCO<sub>2</sub>削減の取り組み

近年、重要視されるサステナビリティ。TKGでは数年前から、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、気候変動に左右されない継続的な事業活動の実現を目指して、エネルギー消費量の把握と削減に努めています。

本格的にCO<sub>2</sub>排出削減活動をスタートしたのは2021年度。少ないエネルギーでモノづくりをする「省エネ生産方式」と、再生可能エネルギー（風力、水力、太陽光など）を活用した「グリーン電力」への転換を両輪で推進し、電力購入におけるCO<sub>2</sub>排出量ゼロを達成しました。今後も活動を推進し、2030年度までに2018年度比で30%のCO<sub>2</sub>削減目標達成を目指します。

2023年3月発行

TKGの「サステナビリティレポート」



CO<sub>2</sub>排出量をScope3（サプライチェーン排出量）まで分析



Frank Springer

Vice President  
Marketing & Innovation,  
Sustainability Officer



## 社員から見たTKGの自慢

2020年半ばに竣工した開発センターの建設工事でできた発生土の丘は、ミネラルが乏しく植物が育つには適さない状態でした。そこで、この丘を緑化する「土地再生プロジェクト」をヴェンデン市と共同で実施。5,000平方メートルを超える広い土地は、灌木や花などの在来植物が茂る、従業員の憩いのオアシスに生まれ変わりました。

合計16万匹のミツバチを飼育する巣箱も設置。生物多様性の維持にも貢献しています。

TKG敷地内を緑化

市と共同で取り組む「土地再生プロジェクト」



## ちょっと寄り道

TKGの本社所在地であるヴェンデン市は、ドイツで最も森林が多い地域のひとつであると同時に、国内で第3位の工業地帯でもあります。

本社所在地にほど近い風光明媚な「ビッグゼー（湖）」は、ドイツのレクリエーションエリアとして人気で、近隣諸国からも観光客が訪れる人気スポット。様々なウォータースポーツを楽しむことができます。また、現在TKGでは地域の2つのスポーツクラブのスポンサーを務めています。そのうちのひとつはハンドボール2部リーグに所属するファンドルフ。ハンドボール人気が高く、強豪チームがひしめく中で、1部リーグ昇格に向け善戦中。社員のみんで応援しています。



Thorsten Hamann

Environmental &  
Energy Manager

# チェーン事業

## 産業用スチールチェーンは世界シェアNo.1

モノが動くところに「チェーン」あり。国内外の様々な産業向けに、世界シェアNo.1の産業用スチールチェーンをはじめとした約2万種類のラインアップから生産性向上、省エネ、環境改善につながる最適なチェーンを最高の品質でお届けしています。

### 【主要商品】

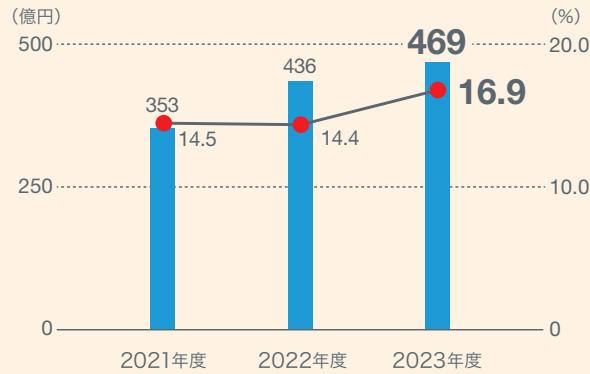
ドライブチェーン、コンベヤチェーン、スプロケット、ケーブル・ホース支持案内装置など

シェアは当社調べ

### セグメント別売上高構成比\*1

35.7%

### 売上高\*2/営業利益率 (第2四半期累計)



# モーションコントロール事業

## 減速機、直線作動機などの豊富な商品群

「Motion & Control」の分野で、独自の複合化技術と豊富な品揃えを生かし、産業機械の複雑な動きを精密にコントロールするモーションコントロール商品群。舞台の昇降装置や立体駐車場、アーケードの屋根開閉、風力発電や駅ホームの可動柵など、様々な「動かす」ニーズに的確にお応えしています。

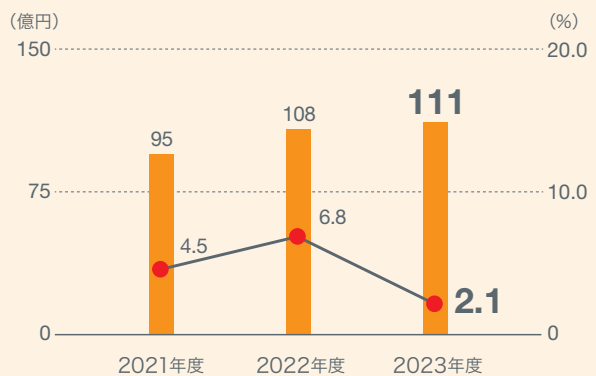
### 【主要商品】

減速機、直線作動機、軸継手、締結具、クラッチ、モジュールなど

### セグメント別売上高構成比\*1

8.5%

### 売上高\*2/営業利益率 (第2四半期累計)



## 2023年度上半期の概況

チェーンにつきましては、日本、米州、欧州、中国、環インド洋において販売が増加したことなどにより、前年同期比で増収となりました。モーションコントロールにつきましては、米州、中国、環インド洋において販売が増加した一方、日本での販売が減少したことなどにより、前年同期比で微増収にとどまりました。

専務執行役員  
パワトラ事業統括  
永井 康詞



# モビリティ事業

## エンジンの高性能化を支える タイミングチェーンシステム

自動車エンジンの高性能化、エコ化に寄与するタイミングチェーンシステムは、国内69%、世界38%とトップシェア。その技術と品質は、世界の自動車メーカーから高い信頼を獲得しています。また、EVやe-Bikeなど次世代モビリティの分野でも、エネルギーロス・CO<sub>2</sub>排出量削減への貢献を目指しています。

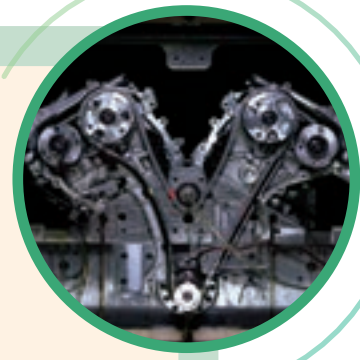
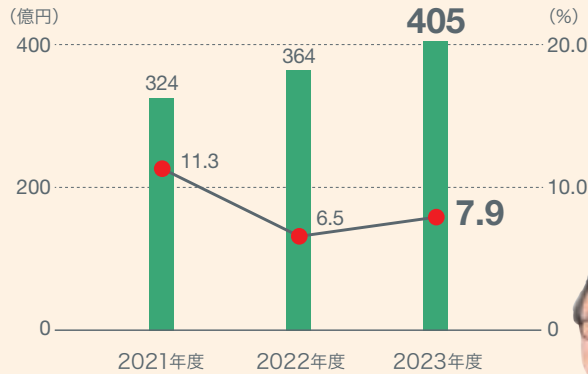
### 【主要商品】

タイミングチェーン、テンショナ、ガイド、レバー、スプロケット、トランスファー用チェーン、車載用クラッチなど  
シェアは当社調べ

### セグメント別売上高構成比\*1

31.5%

### 売上高\*2/営業利益率 (第2四半期累計)



### 2023年度上半期の概況

日本、米州、環インド洋、韓国などの拠点において自動車エンジン用タイミングチェーンシステムなどの販売が増加したことなどにより、前年同期比で増収となりました。



上席執行役員  
モビリティ事業統括  
佐藤 功

# マテハン事業

## 生産性向上に寄与する ソリューションを提供

物流センターにおける自動仕分け装置は、国内シェア70%超。超低温自動保管庫「つばきラボストック®」は、創薬やDNAなどの研究に寄与しています。その他、自動車塗装ライン搬送設備や粉粒体搬送コンベヤなど、お客様の生産性向上、環境負荷低減に寄与するソリューションを提供しています。

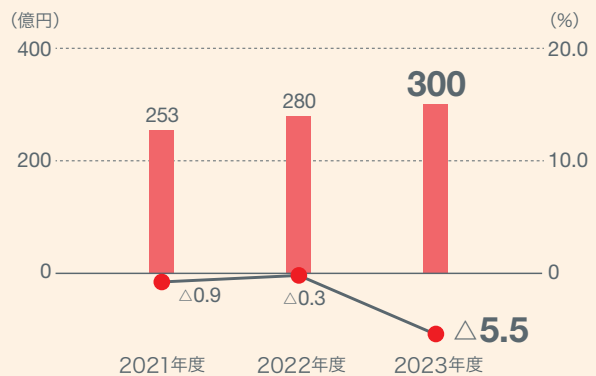
### 【主要商品】

物流業界向けシステム、自動車業界向けシステム、ライフサイエンス分野向けシステム、粉粒体搬送コンベヤなど  
シェアは当社調べ

### セグメント別売上高構成比\*1

23.3%

### 売上高\*2/営業利益率 (第2四半期累計)



### 2023年度上半期の概況

マテハンにつきましては、日本における物流業界向けや自動車業界向けシステム、粉粒体搬送コンベヤなどの売上が減少しましたが、米州、欧州における金属切屑搬送・クーラント処理装置の販売が増加したことなどにより、前年同期比で増収となりました。

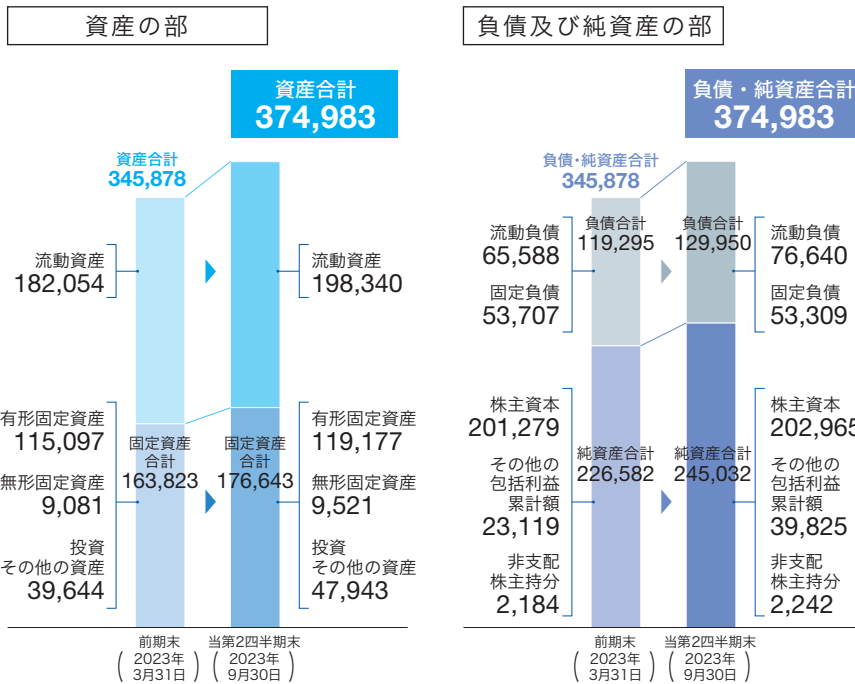
上席執行役員  
マテハン事業統括  
岡本 雅文



\*1 セグメント別売上高構成比は「外部顧客に対する売上高」を基準に算出しています。  
\*2 売上高には「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

連結貸借対照表の概要

(百万円)



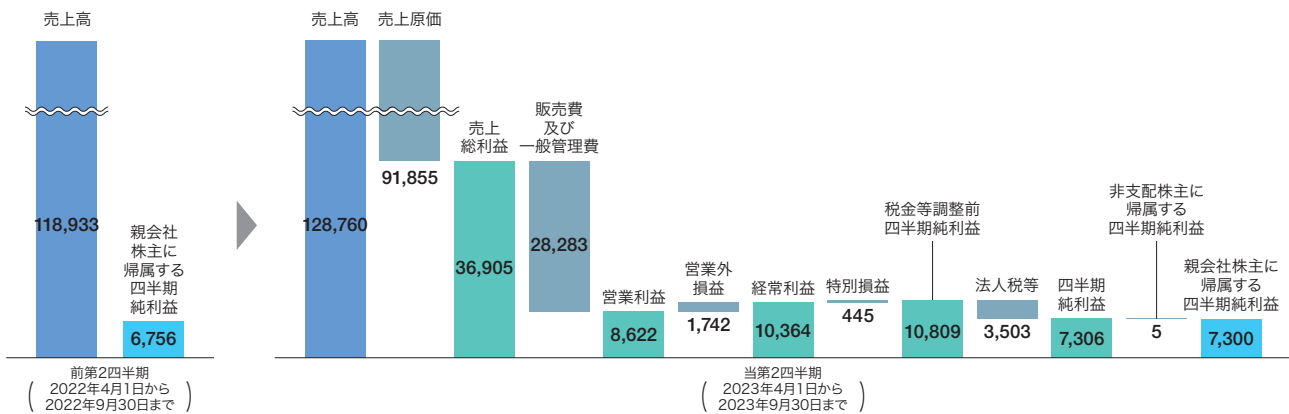
さらに詳しい財務データは、  
当社ホームページの  
「IRライブラリ」をご覧ください。

ツバキモト IR

<https://www.tsubakimoto.jp/ir/library/>

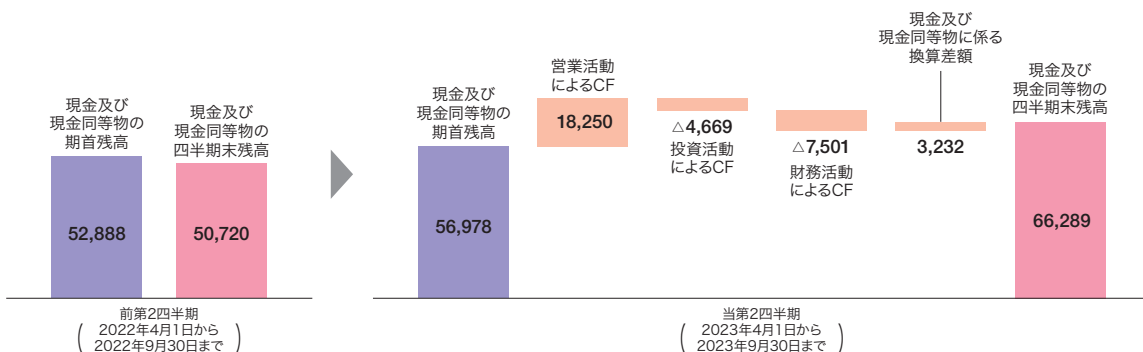
連結損益計算書の概要

(百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(百万円)



2023年9月

## 「日経IR・個人投資家フェア2023」に出展

9月1日・2日の2日間、東京ビッグサイトで開催された「日経IR・個人投資家フェア2023」に13年ぶりに出展しました。ブースでは当社の基本的な事業内容や「中期経営計画2025」に基づく成長戦略に関するミニ会社説明会を開催したほか、世界最小チェーン「RS6」や開発中の電動アシスト3輪自転車「多目的e-Cargo」などを展示。多くの個人投資家の皆様にご来場いただきました。今後も当社グループの知名度向上、事業内容や成長戦略への理解を深めていただくためのIR活動を強化するとともに、活動を通じて寄せられた当社へのご意見等を経営戦略に役立てていきます。



2023年9月

## 「つばきグループ統合報告書 2023」を発行

株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様へ、つばきグループの目指すべき姿や成長戦略等についてご理解を深めていただくことを目的に、「つばきグループ統合報告書」を発行しています。2023年度版では、「中期経営計画2025」達成に向けた戦略に関する社長インタビューのほか、価値創造プロセス、カーボンニュートラルに向けた取り組みなど、財務・非財務情報を統合的に掲載しています。ぜひ、ご一読ください。



統合報告書はこちらから ▶



## つばきのサステナビリティ



## 「まざる」をテーマに本社・大阪支社のリニューアルを実施

2023年10月、本社・大阪支社オフィスの増床・改装工事を実施しました。経営層からの迅速な意思伝達はもちろんのこと、経営層と従業員、部門と部門、様々な世代のメンバーなど、「人が「まざる」ことでイノベーションを起こす」を目的に、これまで京田辺工場に在籍していた本社部門の一部も集約。オフィスをただの出社場所に留めず、コミュニケーション、ディスカッションを活性化させ、従業員のエンゲージメントを高めることができるよう、オフィス内に様々な工夫を凝らしました。

職場コミュニケーション活性化を支援できる環境整備により、生産性向上、創造性発揮を促進し、長期ビジョン2030の実現につなげていきます。



会社概要

商号 株式会社椿本チエイン  
 本店所在地 大阪府北区中之島3丁目3番3号  
 設立年月日 1941年(昭和16年)1月31日  
 資本金 17,076百万円  
 工場 京田辺、埼玉、長岡京、兵庫、岡山  
 支社 東京、名古屋、大阪、DX・IT池袋ベース  
 営業所 大宮、豊田、大阪北、広島、九州  
 関係会社 連結子会社：6社 非連結子会社：8社  
 関連会社：8社(うち、持分法適用関連会社2社)  
 従業員数 連結8,770名 単体3,069名  
 (従業員数には契約社員、パート、アルバイトを含んでおります。)

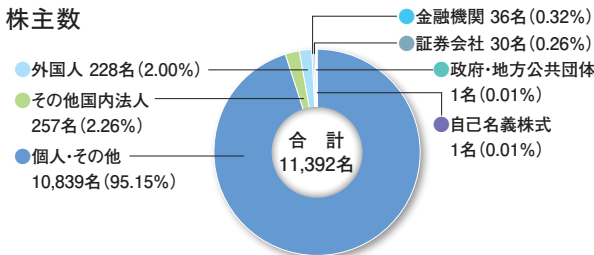
役員

代表取締役会長兼CEO	古世 憲二	上席執行役員	Kevin Richard Powers
代表取締役社長兼COO	木村 隆利	上席執行役員	揚田 利浩
取締役	宮地 正樹	上席執行役員	石田 裕美
取締役	安藤 圭一(※1)	上席執行役員	岡本 雅文
取締役	北山 久恵(※1)	上席執行役員	佐藤 功
取締役	谷所 敬(※1)	上席執行役員	井和 伸光
常勤監査役	田中 浩司	上席執行役員	丹山 太
常勤監査役	川崎 加寸也	執行役員	熊倉 淳
監査役	碩 省三(※2)	執行役員	明坂 泰宏
監査役	内藤 秀文(※2)	執行役員	前田 隆雄
専務執行役員	永井 康詞	執行役員	藤村 昌由
常務執行役員	中村 一智	執行役員	中久保 克也
常務執行役員	西井 久雄	執行役員	佐伯 充史

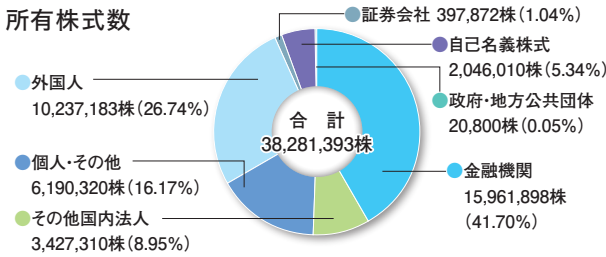
(※1) 取締役のうち安藤圭一氏、北山久恵氏および谷所敬氏は社外取締役です。  
 (※2) 監査役のうち碩省三氏および内藤秀文氏は社外監査役です。

株式の所有者別分布状況

株主数



所有株式数



株式の状況

発行可能株式総数 59,800,000株  
 発行済株式の総数 38,281,393株  
 株主数 11,392名

大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,577千株	12.63%
太陽生命保険株式会社	3,421	9.44
椿本チエイン 株主共栄会	1,629	4.49
日本生命保険相互会社	1,576	4.34
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,566	4.32
椿本興業株式会社	1,158	3.19
GOVERNMENT OF NORWAY	1,027	2.83
株式会社三井住友銀行	1,000	2.75
三井住友信託銀行株式会社	722	1.99
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	706	1.95

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 当社は、自己株式2,046,010株を所有しておりますが、上記大株主には含めておりません。  
 3. 持株比率は、自己株式2,046,010株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間9:00~17:00(土・日・休日を除く) ※取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告の方法	当社のホームページに掲載 (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載)

株主の皆様へのお知らせ

各種手続のお申出先

▶ 住所変更、配当金の受け取り方法のご指定、  
 単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

区分	お申出先
証券会社でお取引をされている株主さま	株主さまの口座のある証券会社
特別口座(証券会社に口座のない)の株主さま	三井住友信託銀行株式会社 (上記、電話照会先をご参照ください。)

特別口座について

株券電子化の手続(証券会社の預け入れ)が済んでいない株式は、特別口座にて管理されています。特別口座は株式を売買するための取引口座ではありませんので、株式の売却の際は、あらかじめ証券会社の口座へ振り替えておく必要があります。詳細は、三井住友信託銀行株式会社(上記、電話照会先をご参照ください。)にお問い合わせください。

未払配当金の支払について

三井住友信託銀行株式会社(上記、電話照会先をご参照ください。)にお問い合わせください。

株主通信(事業のご報告)に関するお問い合わせ先

経営企画室 経営企画課

06-6734-6676

株式会社 椿本チエイン

<https://www.tsubakimoto.jp/>

椿本チエイン

検索

